

Chapter 3

学習支援の方法

3つの学習支援の目的

学習支援の目的と生徒の実状を照らし合わせ、 3つの学習支援のなかから選択します

「10の支援方針」の⑦生活学習支援、⑧探究学習支援、⑨教科学習支援をまとめて、「**学習支援**」と呼びます。それぞれの目的は、以下の通りです。

【生活学習支援】

生活に必要なライフスキルを身につける。または学習習慣を身につける。

【探究学習支援】

好きなことを見つけて探求し、興味を深めたり広げたりする意義を知る。

【教科学習支援】

将来の進路を見据えて目標を設定し、必要な学力を見つける。

どの学習支援を選択するかは、本人の希望・意見を聞きながら、教員（クラス担任、支援ルーム担任）が決定してください。

3つの学習支援は複数選択できますが、その場合、支援方針を決定する際に、「**どれをメインにするか**」を決めておいてください。

また、一度決めた学習支援の方法にこだわる必要はありません。

生徒の反応やモチベーションに合わせて、**柔軟に学習支援の方法を選択し直してください。**

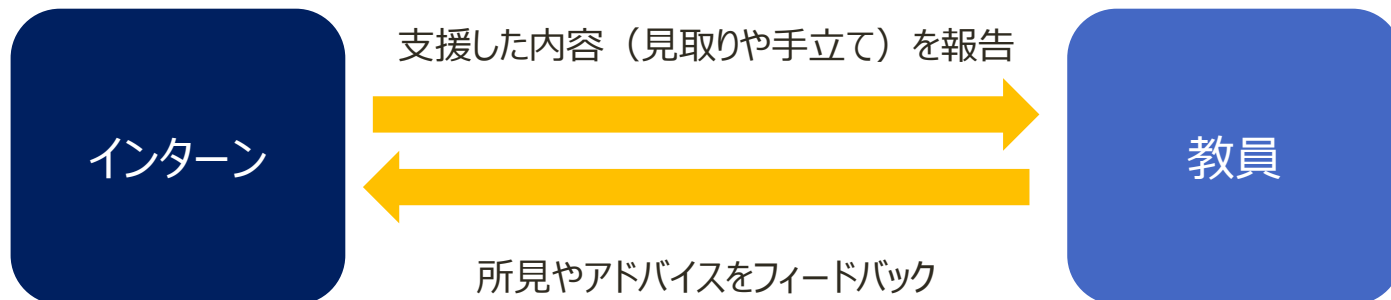
教員とインターンの協力体制

インターンが当日の学習支援の内容を教員に報告し、 教員が所見とアドバイスを返します

3つの学習支援では、**インターンと教員の協力体制**を前提としています。
インターンと教員が密に連絡・相談を行いながら、**情報共有を行うこと**が大切です。

インターンが支援ルームで学習支援を行ったあとは、必ず「教員とインターンの反省会」の時間を設定してください。
日々の学習支援において、インターンと生徒が「1対1」の関係でサポートできるとはかぎりません。
インターンは、当日の支援内容をできるだけ詳しく教員に伝えてください。
教員は、生徒の反応やインターンとの相性を考慮しつつ、所見やアドバイスを与えてください。

教員とインターンの反省会



インターンの役割

学習支援におけるインターンの役割は7つあります 資料を読んで「何をどうやるか」を確認しましょう

学習支援におけるインターンの役割は多岐に及びます。

支援の対象となる生徒も日々変化するために、**臨機応変な対応**が求められます。学習支援におけるインターンの役割と概要、参考資料は以下の通りです。

役割	概要	参照資料
生活学習支援	ワークショップを起点に、生徒がライフスキルや学習習慣を身につけることをサポートする。	04 生活支援の基本ルール
探究学習支援	生徒の好きなこと、興味があることを起点にテーマを決め、調べ学習を行いながら探究をサポートする。	06 探究学習の基本ルール
教科学習支援	本人の希望、学習の進度をふまえながら、教科学習を効率よく進める手伝いをする。	07 教科学習の基本ルール
教員との反省会	学習支援を行った当日、またはワークショップ開催後のタイミングで教員と打ち合わせをする。	前ページ 教員とインターンの協力体制
ワークショップ（企画）	ワークショップの企画、準備、運営を担当する。	05 ワークショップの概要
ワークショップ（支援）	ワークショップ当日に生徒の見取りを担当する。	05 ワークショップの概要
「学びのカルテ1」の入力	学習支援を行った当日、またはワークショップ開催後のタイミングで入力する。	Chapter2 情報共有プラットフォームのしくみ

インターンと生徒の「ラポール形成」

本格的な学習支援に入る前に、 「ラポール形成」で「信頼できる関係」を築きます

学習支援においてインターンが的確にサポートするためには、事前のラポール形成が不可欠です。一般的に「ラポール」とは、「互いに親しい感情が通い合う状態」のことですが、学習支援においては、親しいだけではなく、お互いに「**信頼できる関係**」になることが求められます。生徒が「この人なら正直に話しても大丈夫」と感じるようになれば、**心理的安全性**が担保されます。

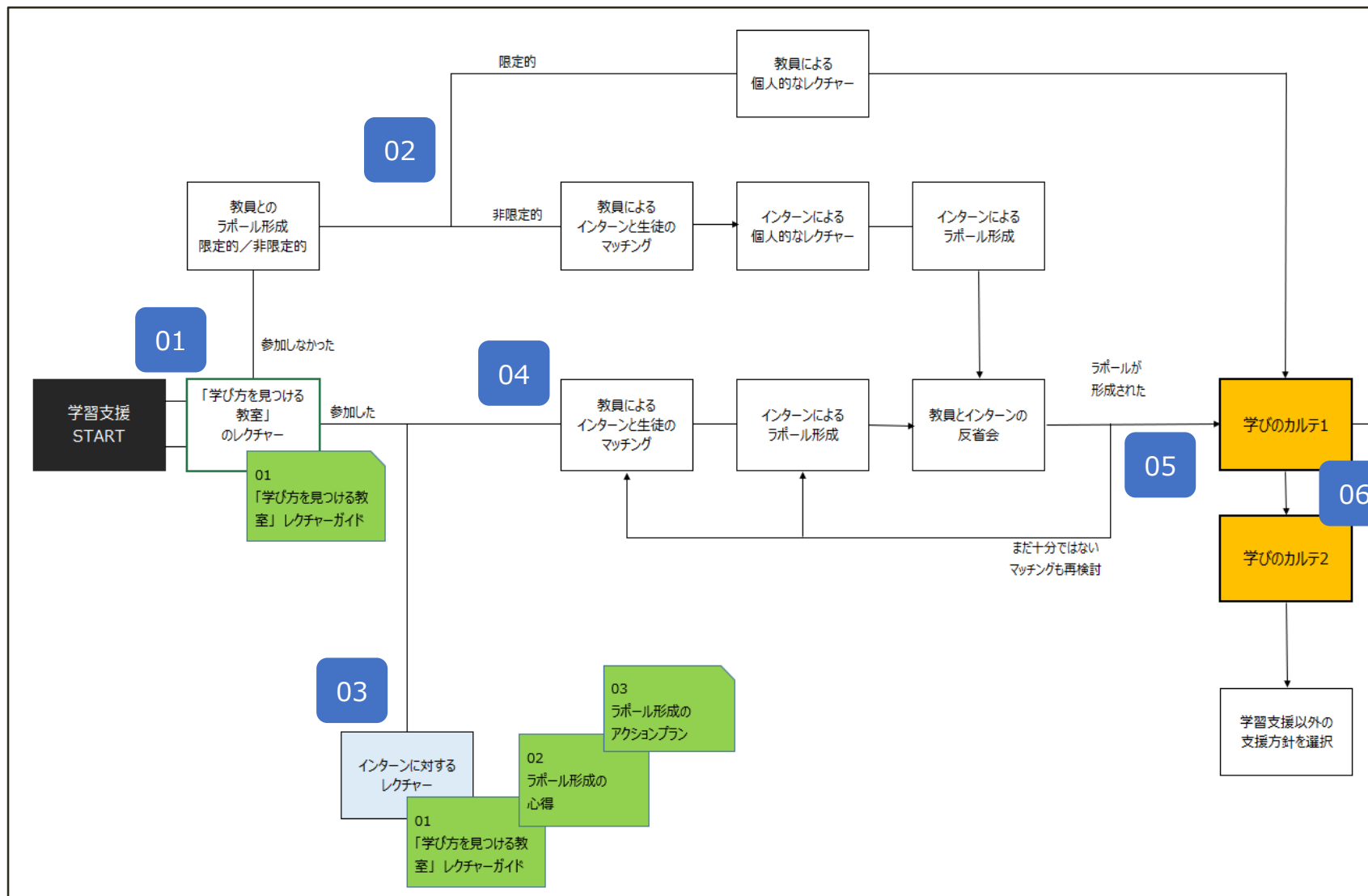
本格的な学習支援に入る前に、できるだけ「ラポール形成」を目的とした時間を設定してください。また、すでに教員による学習支援がスタートしており、インターンが途中で介入する状況なら、学習支援の合間に「ラポール形成」の時間を挿入する工夫をしてください。



次ページから、ラポール形成の流れを具体的に説明します。

【フローチャート】「ラポール形成」の流れ

「ラポール形成」の流れをフローチャートにしました。次ページの【解説】と合わせて確認してください。



【解説】「ラポール形成」の流れ

フローチャート内の番号に対する解説です。前ページの【フローチャート】と合わせて確認してください。

01

学習支援は「**学び方を見つける教室**」のレクチャーからスタートします。このレクチャーは、学習支援に対する考え方を、生徒、教員、インターンで共有することが目的です。

02

上記のレクチャーに参加できなかった生徒を対象に、もう一度レクチャーを行う機会を設定します。特定の教員としかラポールを形成できない（限定的）なら、その教員がレクチャーします。インターンとコミュニケーションがとれる（非限定的）なら、インターンが個人的なレクチャーを行い、「**ラポール形成**」を始めます。

03

教員がインターンに対するレクチャーを行います。**資料01「学び方を見つける教室」レクチャーガイド、資料02ラポール形成の心得、資料03ラポール形成のアクションプラン**を使用してください。

04

インターンが「ラポール形成」に入る前に、教員が生徒の特性を考慮してマッチングを行います。ラポール形成を目的とした支援を終えたあとは、教員とインターンによる反省会を行います。

05

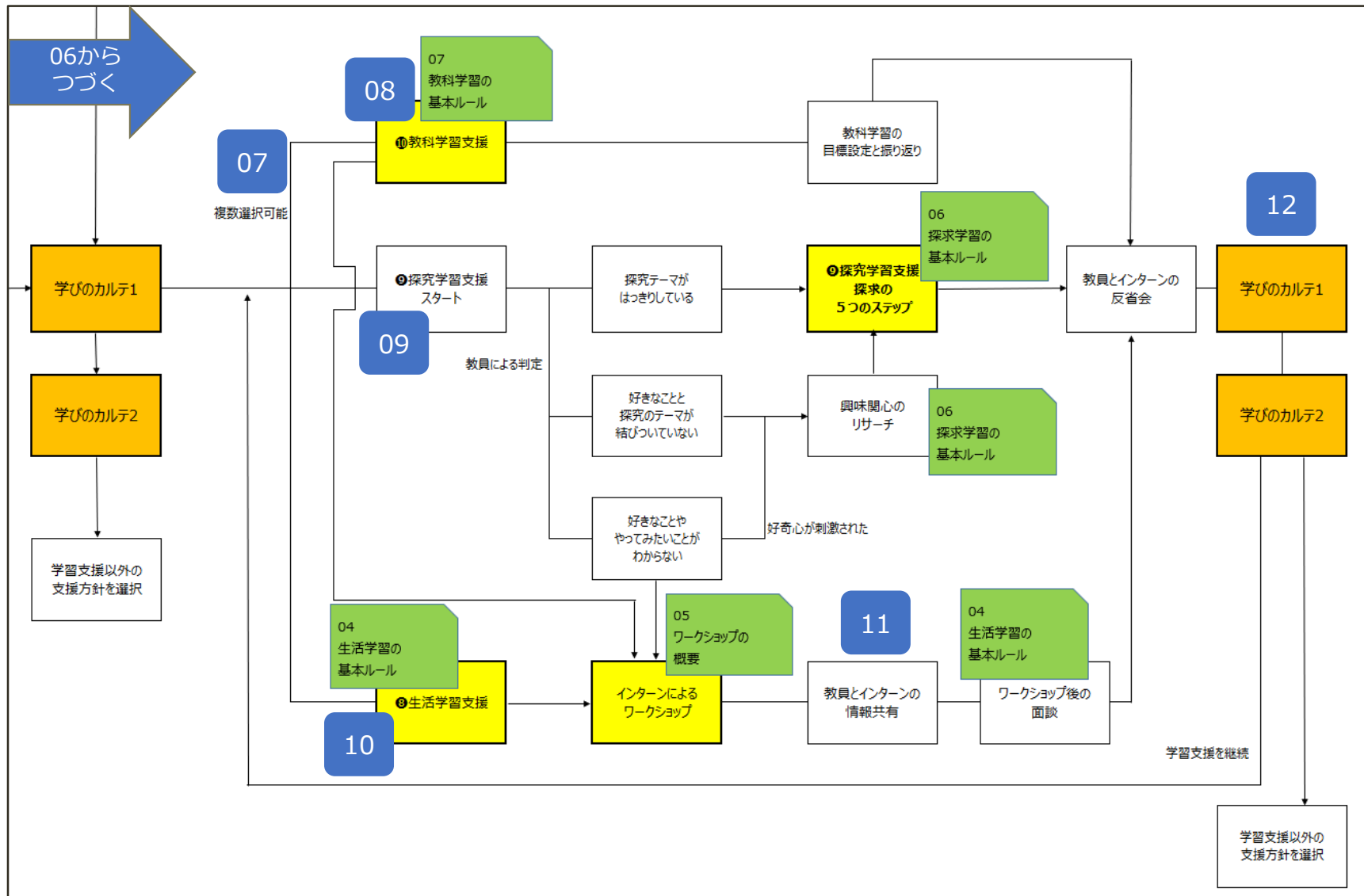
「**教員とインターンの反省会**」において、ラポールが形成されたと判断された場合は、学習支援のフェーズ（07以降）に移行します。もし、まだ十分ではないと判断された場合は、マッチングのやり直しも含めて検討します。

06

この「ラポール形成」期では、具体的な支援の実施日にインターンが「**学びのカルテ1**」に記入して共有します。教員（対象生徒のクラス担任）は、「学びのカルテ1」の内容を確認しつつ「**学びのカルテ2**」に記入し、学年会などの定期的な会議の場や委員会などで支援方針の続行・更新を検討します。

【フローチャート】「学習支援」の流れ

「学習支援」の流れをフローチャートにしました。次ページの【解説】と合わせて確認してください。



【解説】「ラポール形成」の流れ

フローチャート内の番号に対する解説です。前ページの【フローチャート】と合わせて確認してください。

07

「**学びのカルテ1**」の支援方針にもとづいて学習支援をスタートします。

08

⑩教科学習支援では、1 か月経過、単元終了のタイミングで目標設定に対する振り返りを行います。また、学習に対するモチベーションが低下している場合は、「**インターンによるワークショップ**」への参加を呼びかけます。

09

⑨探究学習支援では、生徒のテーマへの向き合い方が大切です。スタート時点で、探究テーマが明確な場合は、本格的な探究（探求の5つのステップ）に進みます。もし、好きなことがテーマに結びつかない場合は、「**興味関心のリサーチ**」を経由します。また、好きなことが何も見つからない場合は、ワークショップを経由して好奇心が刺激されるタイミングを待ちます。

10

⑧生活学習支援はワークショップを起点とします。詳細は、**資料04生活学習の基本ルール**、**資料05ワークショップの概要**を参照してください。ワークショップ当日、支援を担当するインターンは生徒の見取りを行います。

11

ワークショップ終了後に、「**教員とインターンの情報共有**」と「**ワークショップ後の面談**」を行います。どの学習支援においても、情報共有と面談は大切ですが、特に生活学習支援では大きな意味をもちます。インターンの見取りの結果を教員と共有し、どのような支援が有効かを話し合ってください。生活学習支援では、生徒の現状に合わせた個別の対応が求められます。

12

「**学びのカルテ1**」「**学びのカルテ2**」の記入のタイミングは「ラポール形成」期と同様です。
「**学びのカルテ2**」の結果により、学習支援のなかで調整を行う場合もありますし、学習支援以外の支援方針を選択する場合があります。

ラポール形成・学習支援 資料集

ラポール形成と学習支援を補足する資料です。
各ページを確認して必要な項目をピックアップしてください

ラポール形成・学習支援 資料一覧

資料の名称	概要
学び方を見つける教室_スライド	教員・生徒・インターンが学びに対する姿勢を共有するための教材です。 ※このスライドのみ別ファイルで配布します。
01 「学び方を見つける教室」 レクチャーガイド	上記のスライドを使用するためのガイドです。
02 ラポール形成の心得	ラポール形成をめざす前に知っておきたい基本情報をまとめています。
03 ラポール形成の アクションプラン	ラポール形成を行うときに参考になる声かけ、対応、行動などをまとめた資料です。
04 生活学習の基本ルール	ワークショップとのかかわりを中心に生活学習のために行う行動をまとめています。 ワークショップの見取りに必要なフォーマットも収録しています。
05 ワークショップの概要	インターンの視点でワークショップの企画、準備、運営についてまとめた資料です。 ワークショップの構成を考えるためのフォーマットも用意しました。
06 探究学習の基本ルール	前半に生徒の興味関心を言語化する「興味関心のリサーチ」の手順をまとめました。 後半は、5つのステップで探究学習を進める方法を説明しています。 探究学習の成果を記録するフォーマットも用意しました。
07 教科学習の基本ルール	生徒の学力に合わせた教科学習の進め方と振り返り方についてまとめた資料です。

インターン・教員による
【ラポール形成】

「学び方を見つける教室」 レクチャーガイド

学習支援を行う前に、クラス担任または支援ルーム担任が、生徒・インターンを対象に、「学び方を見つける教室」のレクチャーを行います。
この資料では、レクチャーの概要とポイントについて解説します。

「学び方を見つける教室」 レクチャーガイド

1

レクチャーの 役割と目的

「学び方を見つける教室」とは、ラポール形成に入る前に、スタートアップとして生徒・インターンに向けて行うレクチャーです。
その役割と目的は以下のとおりです。

**生活学習、探究学習、教科学習の支援目的を理解し、
教員、生徒、インターンが共有する。**

同時に、いっしょに取り組む姿勢を互いに確認する。

また、教員、インターン、生徒におけるそれぞれの意義は以下のとおりです。

【教員・インターンの意義】

3つの学習支援において、「学び方を見つける」という共通のテーマを明示することで、互いの認識のズレを解消します。

【生徒の意義】

教員やインターンの意図を理解しておくことで、学習支援を正しく受け止めることができるようになります。また「何かをやらされる」のではなく、「いっしょに学び方を見つけていく」という基本姿勢を理解できます。

「学び方を見つける教室」 レクチャーガイド

2

レクチャーの概要

【レクチャー概要】

- ・参加対象……ラポール形成にかかわる教員、インターン、生徒
- ・開催形式……30分程度の時間を確保し、オフラインまたはオンラインにて実施
- ・開催方法……「学び方を見つける教室」のスライド*1を使用しながら、担当教員（クラス担任または支援ルーム担任）がレクチャーします。

【開催までの流れ】

開催日時が決まったら、対象生徒へ事前にアナウンスを行います。

どんな話をするのかや、オンラインでの参加も可能なことなどを伝え、できるかぎり心理的なハードルを下げるようにしてください。

文章で告知するほかに、イラスト入りの案内状を送るという方法もあります。

【オンラインで開催する場合】

オンラインで開催する場合は、レクチャーを始める前に、参加希望の生徒たちがログインできているかを、担当教員が確認してください。

当日の参加が難しい生徒には、別途アナウンスをし、担当教員によるレクチャーの機会を個別に設けます。

また、担当教員が「ラポール形成が限定的ではない」と判断した生徒に対しては、インターンがレクチャーを行うこともできます。

*1：使用するスライド資料「学び方を見つける教室_スライド」

その1「学び方を見つける教室」ってどんなもの？

生活学習、探究学習、教科学習を通じて、自分の「**学び方**」や「**得意なこと**」を知ることの**大切さ**を伝えます。また、自分らしい学び方を見つけて成果をあげた人の事例を紹介して、**苦手**を**得意**に転換できることを説明します。

「学び方を見つける教室」 レクチャーガイド

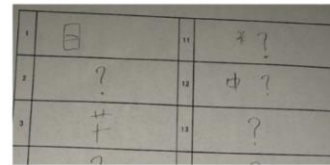
③

内容紹介 その1

【スライドより抜粋】

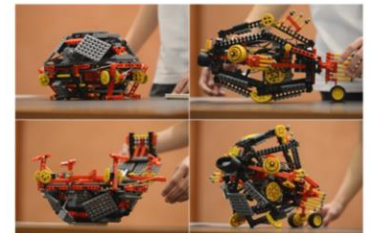
【A君の場合】

読み書きは**苦手**だけど**ロボットづくり**は**得意**！



Aくんが書いた、漢字のテスト

答え：1) 目標 3) 芽 11) 粉 12) 仲間



【D君の場合】

会って話すのは**苦手**だけど、**オンラインの仕事**なら**得意**！



その2 「学び方を見つける教室」って どんなことをやるの？

生活学習、探究学習、教科学習において、**授業のスタイルは自由であることを**伝えま
す。また、インターンが企画するワークショップを開催すること預告します。

【スライドより抜粋】

授業のスタイルは自由です。

この教室への登校はもちろん、
オンラインで参加することもできます。

担任の先生と相談しながら、
あなたが「やってみよう」と思える方法や
学びのスタイルを、いっしょに探っていきます。

また、インターンの大学生も、あなたの学びをサポートします。

教科を
がんばって
勉強したい

好きなこと
得意なこと
を探したい

悩みや
相談に
のってほしい

何をやれば
いいのか
わからない

ぜんぶ
OK!

「学び方を見つ ける教室」 レクチャーガイド

4

内容紹介 その2

その3 自分の「個才」はどうすれば見つかる？

自分の強み、得意なことに関する特性を「個才」と呼びます。ふだんの生活や行動に当てはめて、「個才」を見つけることで、**自分にぴったりの「学び方」**を発見できます。ここでは、「個才」を見つけるための3つのポイントについて説明し、共有します。

- ①好奇心のアンテナ
- ②考え方のスタイル
- ③情報キャッチ・発信の方法

【スライドより抜粋】

「個才」を見つける3つのポイント

「個才」を見つけるポイントを3つ紹介します。
ふだんの生活や行動に当てはめて、「自分はどうかな？」と考えてみましょう。
自分では気づかなくても、身近な人の意見を聞くことで、
気づかなかった才能を発見できることもあります。

- | | |
|---------------|---------------------|
| ①好奇心のアンテナ | 好奇心がめばえたときのアンテナのほり方 |
| ②考え方のスタイル | 考えたり行動したりするときのクセ |
| ③情報キャッチ・発信の方法 | 情報を受けたり出したりするときの傾向 |

「学び方を見つける教室」
レクチャーガイド

5

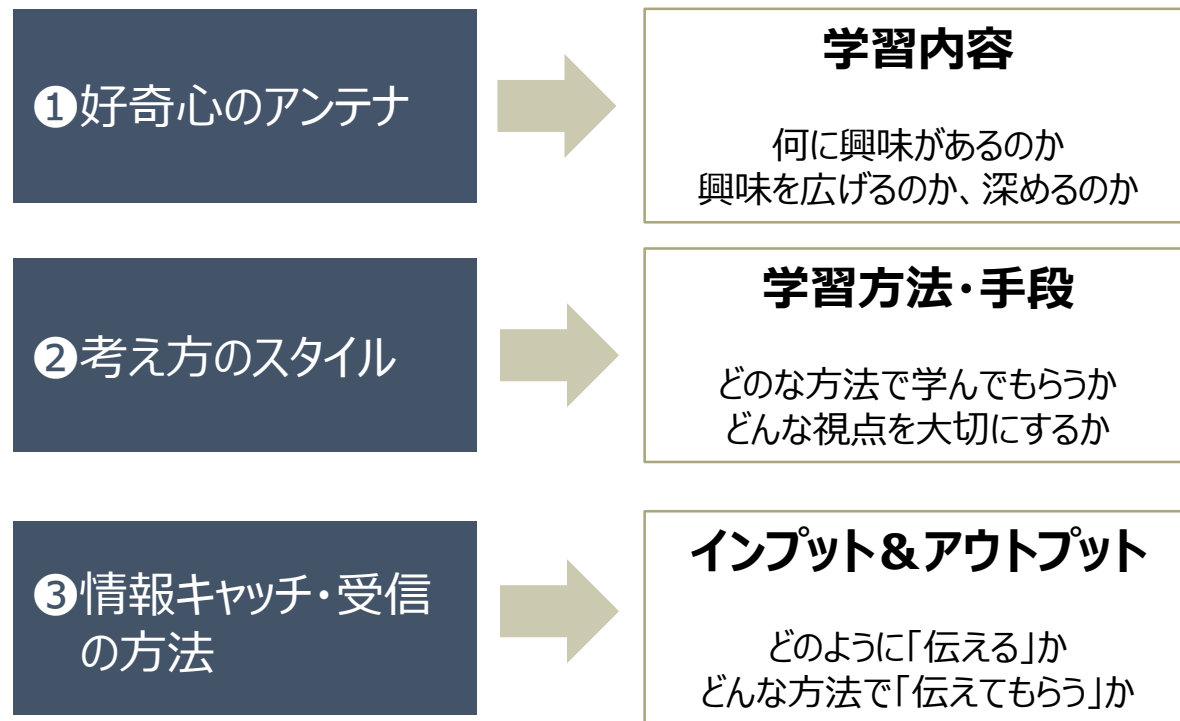
内容紹介
その3

「学び方を見つける教室」 レクチャーガイド ⑥

「個才」を 学習支援に 活かす方法

生活学習、探究学習、教科学習のすべてのシーンにおいて、「個才」に関する情報を活かすことが、学び方の発見（学びの個別最適化）につながります。
それぞれの学習支援において、「個才の3つのポイント」をどのように活用するかを確認してください。

ラポール形成の会話のなかから、**個才の傾向をつかみ**、それを学習支援に役立てることが、生徒の特性に合う**「学び方の発見」**につながります。



インターン・教員による 【ラポール形成】

ラポール形成の心得

インターンが生徒の学習支援を行う場合、事前に「ラポール形成」を行う必要があります。
この場合のラポール形成とは、お互いに意見を言い合える信頼関係を築くことです。
この資料では、ラポール形成のポイントとコミュニケーションのコツについて解説します。

ラポール形成の 心得

①

ラポール形成 3つのポイント

ラポール形成の際に心がけておきたい、3つのポイントを紹介します。
それぞれの具体的な内容は、次ページから詳しく説明していきます。

ラポール形成 3つのポイント

【その1】 尊重する

【その2】 観察する

【その3】 ペースを合わせる

ラポール形成の目的は、「**相手がリラックスしてコミュニケーションできる状態**」にすることです。

有益な会話をめざすのではなく、生徒の心理状態を把握しながら、ていねいに進めていくことが大切です。

ラポール形成の 心得

②

ラポール形成のポイント 【その1】 尊重する

生徒は、自己肯定感が低かったり、コントロールされることに抵抗感や不安を抱いたりすることがあります。

「あなたの存在や意思を尊重します」というメッセージを伝えましょう。

【尊重のメッセージを返すコツ】

①傾聴する

こちらが望む言葉を引き出そうとするのではなく、相手が話したいことに耳を傾けます。

②表情・態度・言葉で「肯定」を表す

「あなたの話を聞いています」という姿勢を伝えることで、相手は自身に興味を持っていることがわかり、安心します。

「そうなんだ」「なるほど！」「それはおもしろいね」などの相づちによって、次の発言をうながせる場合もあります。

特にオンラインでは、少しオーバーなリアクションをしたほうが相手に伝わりやすくなります。

③否定しない・強制しない

ラポール形成ができていない状態では、できるだけ否定的な発言は避けます。

特に、人格、能力、不登校などの事実については、たとえ本人がみずからネガティブな発言をした場合でも、まずは受容するだけにとどめます。

何かをうながす際は、「～してもらえる？」「～してみない？」というニュアンスで呼びかけます。

また、消極的な生徒には、選択肢を複数提示して選択してもらいます。

どうしても誘いに乗ってこない場合は、「じゃあ、のんびり待っているね」というスタンスで待ちます。

ラポール形成 の心得

③

ラポール形成のポイント 【その2】 観察する

生徒たちは表情や態度でさまざまなメッセージを発信しています。
注意深く観察してキャッチアップしましょう。
各シチュエーションにおける、おもな観察ポイントは以下のとおりです。

【観察のポイント】

①何かに取り組んでいるとき

- ・作業に集中できているか。
- ・つまづいている様子、困っている様子はないか。

②会話をしているとき

- ・顔色や表情、態度に不安が表れていないか。
- ・会話を苦痛に感じていないか。
- ・体調に問題はないか。

③こちら話を聞いているとき

- ・興味をもって聞いているか。
- ・話している内容を理解できているか。
- ・注意が散漫になっていないか。

④その他のシチュエーション

- ・複数の生徒がいるとき、ほかの生徒の存在を苦痛に感じていないか。
- ・特定の生徒に影響を受けていないか。 など

ラポール形成 の心得

4

ラポール形成のポイント 【その3】 ペースを合わせる

会話をはじめとする、さまざまなコミュニケーションのスタイルを生徒に合わせることで、安心感につながります。

また、共感や親近感を得ることもできます。

【安心感を引き出すコミュニケーション術】

①ペーシング

会話中に以下のポイントを相手に合わせる。

- ・話すスピード
- ・話し方
- ・声の大きさ・トーン
- ・会話のテンポ

②ミラーリング

相手の姿勢や仕草、笑うタイミングをまねる、同じ飲み物や食べ物を選ぶ、などの行動を意識的に選択します。

③バックトラッキング

相手の言葉を受け入れて、そのまま繰り返します。要約したり、言い換えたりしないほうが効果的です。

（例）相手：「昨日は、〇〇というゲームをやっていた」

あなた：「そっか、〇〇というゲームをやっていたんだね」

ラポール形成 の心得

5

コミュニケーション 3つのコツ

「ラポール形成 3つのポイント」をふまえたうえで、コミュニケーションの質をより高めるためのコツを紹介します。

コミュニケーション 3つのコツ

【その1】 合意形成

【その2】 回数を重ねる（ザイアンス効果）

【その3】 適度な自己開示

コミュニケーションの質を高め、時間をかけて接触することで、**信頼関係を築けます**。信頼できる関係になれば、相談したり意見をぶつけたりする相手として認識してもらえます。

「仲がいい」「気が合う」の先にある信頼を得るために、この3つのコツを実践してみましょう。

ラポール形成の心得

⑥

コミュニケーションのコツ 【その1】 合意形成

生徒が、こちらの意図を正確にくみとってくれるとはかぎりません。
不安を抱かせないため、適度なタイミングで合意形成を心がけます。

【合意形成の具体的なアクション】

① 目的や意図を最初に伝える

目的や意図は、視点によって変わります。

長期的な視点と短期的な視点を必要に応じて使い分けましょう。

- ・長期的 「私はあなたと、〇〇をいっしょにやっていきたいと思っています」
- ・短期的 「今日は〇〇をやりたいので、いくつか質問してもいいですか？」

② 本人の意思を確認する

合意形成において、本人の意思を確認することも大切です。

以下のような表現で確認します。

- 「やってみる？」 「AとB、どちらをやりたい？」
- 「ここまでは大丈夫？」 「もう少しやれそう？」

③ 聞きっぱなしにせず、フィードバックする

相手に対して、「きちんと受け取ったこと」がわかる表現で返します。

以下のような言葉を返すことが、合意形成につながります。

- 「〇〇ができるなんて、すごいと思いました」
- 「〇〇さんの話を聞いて、私も興味を持ちました」
- 「話してくれて、うれしかったよ。いっしょに考えていきましょう」

ラポール形成の 心得

7

コミュニケーションのコツ 【その2】 回数を重ねる

短期間でいきに関係性を深めようとするとう失敗します。積極的に接触回数を増やし、**ザイアンス効果***1を利用して信頼関係を築きます。

メールやチャットなどを積極的に活用して、接触回数を増やしましょう。

【ザイアンス効果の具体例】

【回数を重ねることのメリット】

接触回数を増やせば、以下のようなメリットがあります。

- ①生徒の心理的負担を軽減できる
- ②誠実に向き合おうとする意思をアピールできる
- ③さまざまな視点から相手を理解できるようになる
- ④反応を見ながらアプローチの方法を調整・変更できる

【メールやチャットによる声かけ】

直接会えない場合も、メールやチャットを通じて、以下のような言葉をかけることで、接触回数を増やせます。

【声かけの例】

「おはよう。調子はどうですか？」

「今日は会えますか？ 楽しみにしています」

「今日はありがとう、楽しかったです。ゆっくり休んでくださいね」

「〇〇さんが教えてくれたマンガ、今から読んでみます」 ……など

*1：アメリカの心理学者、ロバート・ザイアンスが提唱した法則で、「単純接触効果」とも呼ばれます。初めは興味・関心がなくても、くり返し接触することで、印象や好感度の度合いが高まるとされています。

ラポール形成の心得

8

コミュニケーションのコツ
【その3】

適度な自己開示

信頼関係を築くために、あなたが「どのような人か」を知ってもらう必要があります。**相手よりも先に自己開示**することで、心理的なハードルが下がり、「自分のことも話してみよう」という気持ちが生れます。

【自己開示のタイミング】

以下のタイミングで積極的に自己開示をしてみましょう。

- ①初対面するとき（自己紹介として）
- ②会話のきっかけをつくりたいとき
- ③自分の体験が学習支援に役立つそうとき

【自己開示の内容】

いきなり深刻な話題をぶつくと、相手が委縮してしまいます。会話が広がりやすい日常的なテーマや体験談を選択しましょう。一般的に、以下のような内容が適しています。

- ①中学校時代の体験
- ②自分の兄弟や友達の話
- ③生まれ育った地域のローカルな話題
- ④部活動や打ち込んでいたスポーツの話
- ⑤勉強で苦しんだこと、辛かったこと。

また、生徒が悩みを打ち明けてくれたり、相談をしてくれたりしたときは、その場で個人的な意見を返すのではなく、打ち明けてくれた事実に対して「話してくれてありがとう」と感謝の意を示します。

ラポール形成の 心得

9

ラポール形成 まとめ

正しい対応をしても、生徒によって、対人関係で**トラブルを起こしやすい傾向**や、**心理が不安定になる傾向**が顕在化する場合があります。

ときには、「ウザイ」「うるさい」「キモイ」といった表現で接触を拒否しようとします。その多くは自身の感情や思考をうまく言語化できないことに起因します。

こうした状況では、**その場で解決しようとせず**、一度もち帰って、クラス担任や支援ルーム担任に相談してください。時間が解決してくれる場合もありますし、支援方針を変更することで解決する場合もあります。

ネガティブな言葉や攻撃的な言葉を投げかけられた場合も、落ち込まず、支援を継続してください。支援の伴走者には、**粘り強く時間をかけて解決する姿勢**が求められます。

×
その場で解決しようとする

○
もち帰って教員に相談



インターン・教員による
【ラポール形成】

ラポール形成の アクションプラン

「ラポール形成の心得」を読んでから、この「アクションプラン」を実践してください。
資料の前半では、コミュニケーションに役立つ声かけのフレーズを紹介しています。
資料の後半では、ラポール形成をうながす4つのアクションについて具体的に解説しています。

ラポール形成の アクションプラン

1

声かけのフレーズ その1

生徒とコミュニケーションの際に、**声かけのタイミングや言い回し**を工夫しましょう。少しニュアンスを変えるだけで、相手が受け取る印象は大きく変わります。

【初対面でのあいさつ】

初対面であいさつをするときは、以下の流れを意識します。

- ①自己紹介をする
- ②「学び方を見つける教室」の目的や、サポート役としての思いを伝える
- ③いっしょに取り組んでいくという基本姿勢を伝える

（②③の展開例）

「〇〇さんの特性にあった学び方やをいっしょに見つけていきたいと思います。苦手なことがあるのは当然のことなので大丈夫。ゆっくり取り組んでいきましょう。私は〇〇さんのことをたくさん知りたいと思っています。不安なことや悩んでいることも、話してもらえたらうれしいです」

【毎日の声かけフレーズ】

コミュニケーションをとるための声かけを①～⑥のカテゴリーに分けて紹介します。適宜選択して使ってください。

①あいさつをかわす

「今日の調子（体調）はどうですか？」「朝ごはん、ちゃんと食べた？」
「昨日はゆっくり眠れましたか？」「今日もいっしょに楽しくがんばりましょう」
「次回も会えるのを楽しみにしています」「気をつけて帰ってね」

ラポール形成の アクションプラン

②

声かけのフレーズ その2

②承認・承諾の意を示す

「よくがんばったね！」「それはすごいことだね」「よくわかりました」

「なるほど！」「おもしろい！」「よくできていると思います」

「そういう考え方もあるよね」「ありがとう、助かりました」

「〇〇さんのそういうところ、すばらしいと思います」「そんなところが、〇〇さんの魅力だね」

③共感の意を表す

「それは大変だった（つらかった）ね」「私もすごくいいと思うよ」

「〇〇さんの言いたいこと、わかるなあ」「確かに、これは難しいよね」

④励ます

「失敗は誰にでもあるよ」「あせらないでいいよ」「自分のペースで大丈夫だよ」

「私も精いっぱいサポートするからね」「もう少し続けたら、もっとよくなると思うよ」

⑤提案する

「AとBのどちらかを試してみない？」「いっしょに整理してみよう」

「いっしょに、がんばってみない？」「試しに、〇〇をやってみるのは、どうかな？」

⑥問いかける

「〇〇さんの話を聞かせてもらえる？」「もう少し、聞かせてもらってもいい？」

「間違っていたらごめんね。でもそれは、〇〇ということじゃないかな？」

「どんなところが、難しいと感じた？」

ラポール形成の アクションプラン

③

4つのアクション

ラポール形成の基本はふだんの会話やコミュニケーションです。
ときには「いっしょに勉強をすること」もラポール形成に役立ちます。
ここでは、ラポール形成に役立つ**4つのアクション**を紹介していきます。

ラポール形成につながる4つのアクション

【アクション1】 自分を知る

【アクション2】 困っていることを探る

【アクション3】 好きなことを見つける

【アクション4】 体験を共有する

ここで紹介した4つのアクションをすべて実行する必要はありません。生徒の心理状態やモチベーションに合わせて、**有効と思われるアクション**を選択しましょう。

ラポール形成の アクションプラン

4

【アクション1】 自分を知る

生徒が自分を知るきっかけをつくることを目的としたアクションです。
「学び方を見つける教室」のレクチャーにおける「**個才を見つける3つのポイント**」を意識して、質問を投げかけてみましょう。

①「好奇心のアンテナ」を意識した質問

「〇〇さんは、1つのことを深く知ろうとするタイプかな？」

「〇〇さんは、いろんなことに関心があるんだね？」

②「考え方のスタイル」を意識した質問

「新しいアイデアがどんどん浮かんでくる……なんて経験はある？」

「ひとつのことを集中してやりたいタイプ？」

「ひとりで作業するほうが好き？ みんなで作業するほうが好き？」

「チャレンジ精神があるほうだと思う？」

③情報キャッチ・発信の方法

「動画を見るのは好き？ 文字よりも動画のほうがすんなり理解できる？」

「ラジオは聞く？ 聞いたことを思い出したりする？」

「人に説明するとしたら、どうする？ 直接話す？ それとも書いて説明する？」

「気持ちや感情伝えるとしたら、文章で書く？ それとも絵にする？」

「本を読むのは好き？ どんな本を読んだことがある？」

質問に対する答えを整理することで、生徒の「個才」が少しずつ見えてくるようになります。

ラポール形成の アクションプラン

5

【アクション2】 困っていることを 探す

生徒が「困っている」を探るための具体的なアクションプランです。
強い拒絶が見られる場合は、深追いせず、**時間を置いて働きかけましょう。**

① 質問やワーク形式で探る

「何が苦手？」という漠然とした質問ではなく、具体的なテーマを用意して聞きます。

（テーマの例）

- ・「好きな人や苦手な人のこと」を、お互いに書こう！
個人名ではなく、特徴とその理由ノートに書き、お互いに発表する。
- ・もし神様が「困っていることをひとつだけ解決してあげる」と言ったら？
人間関係、生活環境、学習面で困っているポイントを探る。
いっしょに書いて互いに発表する。

② 失敗談や苦手なことを話す

インターンの中学生時代の失敗談や苦手だったことを話し、アドバイスや意見を求めながら、同時に生徒の悩みを探る。

（展開例）

- 「私も中学時代、〇〇について悩んでいたよ」
「〇〇さんだったらどうするか、アドバイスをもらえないかな？」
「〇〇さんも、もし何か困っていることがあれば、話してくれるとうれしいな」

ラポール形成の アクションプラン

⑥

【アクション3】 好きなこと を見つける

生徒の「好きなこと」を見つける手助けをするアクションです。
さまざまな選択肢をこちらで用意し、少しずつテーマを絞り込んでいきます。

① 質問やワーク形式で絞り込む

「何が好き？」と聞かずに、具体的な質問のテーマを用意します。
生徒の個才に合わせて、「会話」または「ノートに書く」かを選択します。

（質問のテーマ）

- ・「尊敬する人」「あこがれる人」「好きな人」は？
- ・今までで一番ハマったことは？
- ・もしもお金がたくさんあったら、何をやってみたい？
- ・20年後、あなたはどんな生活をしていたい？

② 動画（YouTubeなど）コンテンツをテーマにする

YouTubeや教育系アーカイブなどを活用し、どんな分野に興味があるのかを探ります。
以下のような手順で進めてください。

ステップ1

「どんなジャンルの動画を見たいか」を聞く。

ステップ2

ジャンルが決まったら、「AとBならどちらがいい？」と選択を促してから視聴する。

ステップ3

視聴後は、お互いに感想を述べ、「どんなことに興味があるか」を探る。

ラポール形成の アクションプラン

7

【アクション4】 体験を共有する

会話が続かない、会話の糸口がつかめないといった生徒との**コミュニケーションを目的としたアクション**です。ゲーム性の高いツールを利用して、話題づくりや体験の共有に役立ててください。

①自己開示をするカードゲーム

カードをめくり、出てきた質問に答えることで、自己開示やお互いを理解することを目的に作られたカードゲーム*1です。

生徒と支援者が交互にカードをめくり答えていきますが、「どうしても答えたくない場合はパスしてもいいからね」と、事前に伝えておきます。

②クロスワードパズルをとく

ひとつのクロスワードパズルにいっしょに取り組みます。

読み書きの特性や学習レベルに合わせた問題を用意しておきます。

生徒が悩んでいる場合は、ヒントを出すようにしてください。

③得意なゲームをいっしょにプレイする

生徒が得意なゲームを聞き、いっしょにプレイします。

マニュアルを見てプレイするのではなく、生徒にルールやプレイのコツを説明してもらいます。

プレイ後に「〇〇がおもしろい」「〇〇がわからなかった」と生徒に話しかけることから、会話の糸口をつかみましょう。

生徒の情報を引き出すことが目的ではありません。

コミュニケーションのきっかけをつかむことを優先してください。

*1：『こころかるた』『シャベリカ』などのカードゲームをインターネットで探してください。

インターン・教員による
【学習支援】

生活学習の基本ルール

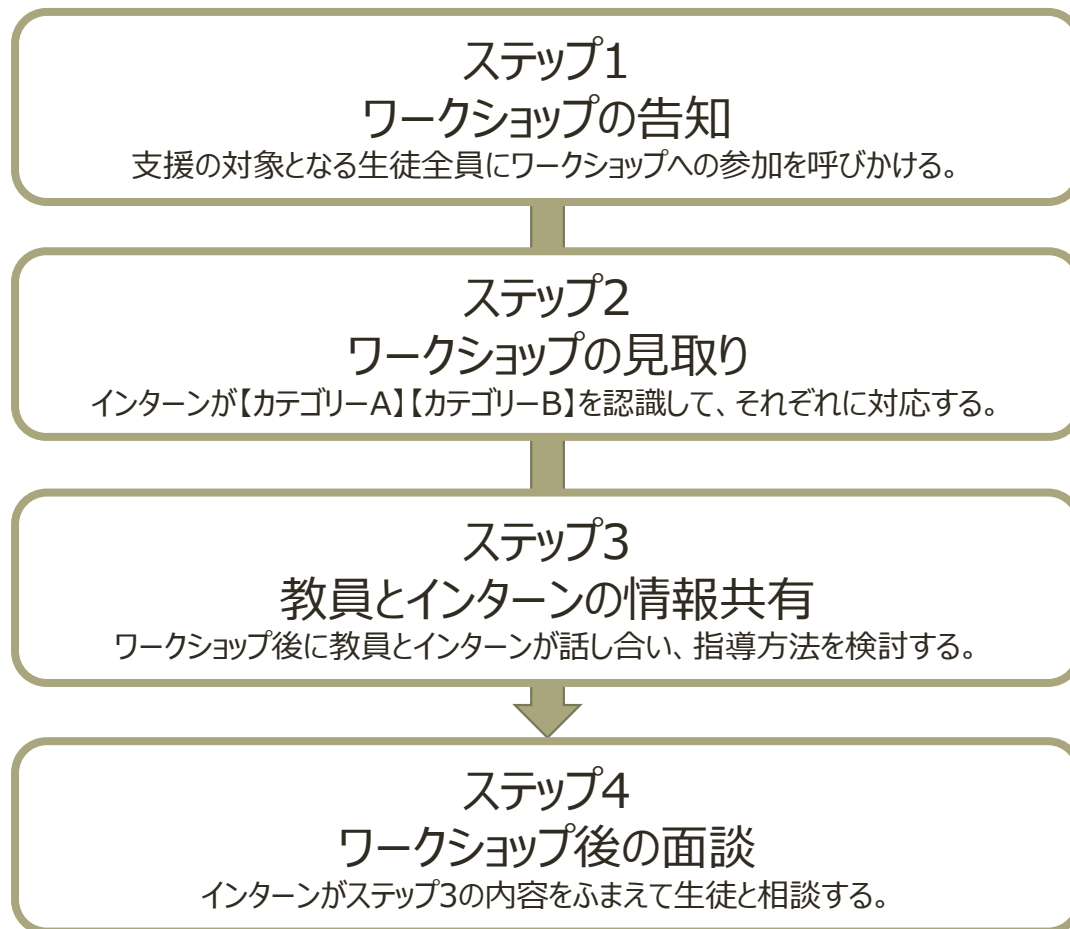
生活学習は定期的に行われるワークショップを起点として、4つのステップを繰り返します。
また、ここでいう「生活学習」には2つのカテゴリーが含まれており、それぞれの支援方法が違います。
そのため、この資料では、インターンの具体的な対応をカテゴリー別に解説しています。

生活学習の 基本ルール

①

生活学習の 4ステップ

生活学習支援は、ワークショップ*1を起点に、以下の4ステップで進めます。



*1：ワークショップについては、資料「05 ワークショップの概要」を参照。

生活学習の 基本ルール

2

生活学習の 2つのカテゴリー

生活学習には、2つのカテゴリーがあり、
どちらもワークショップをスタート地点として設定します。

1つめの生活学習【カテゴリーA】は、日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、適切な対応ができる能力を養うことが目的となります。
この目的は、WHO（世界保健機関）による「ライフスキル」の定義と合致します。

2つめの生活学習【カテゴリーB】は、以下のような生徒を対象とします。

- ・教科学習へのモチベーションがない、または低下している。
- ・通常のアプローチでは学習習慣が身につかないと判断できる。
- ・学習の遅れが著しいため、学び直しのポイントがはっきりしない。

実際には、カテゴリーA、カテゴリーBの両面からの支援が必要な場合がありますが、教員の見立てにより、毎回、どちらかのカテゴリーを選択します。
A Bの違いを表にまとめると、以下のようになります。

カテゴリー	ライフスキル	学習習慣
カテゴリーA	◎必要	△優先しない
カテゴリーB	△不要または優先しない	◎優先する

生活学習の 基本ルール

③

【カテゴリーA】 見取りの ポイント10

生活学習【カテゴリーA】に相当する生徒の見取りを担当したインターンは、以下の**ポイント10**を見取ります。
次ページの記入例を見ながらワークショップ当日に「**フォーマットA**」に記録してください。

ライフスキルにもとづいた見取りのポイント10

- ① 状況に合わせた道具の整理整頓ができているか？
- ② お金を計画的に使い、ひとりで買い物ができるか？
- ③ 先の見通しを立てながら、計画的に行動しているか？
- ④ 基本的なマナーやルールを守れているか？
- ⑤ 自分の意思でわからないことを質問できるか？
- ⑥ 自分の感情を自分でコントロールできるか？
- ⑦ 自分の順番をきちんと待てるか？
- ⑧ だれかと協力しながらスムーズに活動できるか？
- ⑨ できないことに対してあきらめずにトライできるか？
- ⑩ 緊張しすぎたり、過度に不安になったりしていないか？

フォーマットA 記入見本

実施日

2022.04.30

生徒の名前

学研 太郎

記入者

学研 花子

該当	生活学習の見取りポイント10	できている	ときどきできる	できていない	備考
<input type="radio"/>	① 状況に合わせた道具の整理整頓ができているか？			<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>	② お金を計画的に使い、ひとりで買い物ができるか？		<input type="radio"/>		1人で買い物はできるが、計画的にお金を使うことは苦手。
<input type="radio"/>	③ 先の見通しを立てながら、計画的に行動しているか？	<input type="radio"/>			
<input type="radio"/>	④ 基本的なマナーやルールを守れているか？				当日、気づいたことを簡単に書く
<input type="radio"/>	⑤ 自分の意思でわからないことを質問できるか？				当日、3つのなかから1つをえらんで、○をつける
<input type="radio"/>	⑥ 自分の感情を自分でコントロールできるか？				
<input type="radio"/>	⑦ 自分の順番をきちんと待てるか？				
<input type="radio"/>	⑧ だれかと協力しながらスムーズに活動できるか？				ワークショップの内容を事前に確認して、見取りが可能だと思われる項目に○をつける
<input type="radio"/>	⑨ できないことに対してあきらめずにトライできるか？				
<input type="radio"/>	⑩ 緊張しすぎたり、過度に不安になったりしていないか？				

フォーマットA 記入用

実施日

生徒の名前

記入者

該当	生活学習の見取りポイント10	できている	ときどきできる	できていない	備考
	① 状況に合わせた道具の整理整頓ができているか？				
	② お金を計画的に使い、ひとりで買い物ができるか？				
	③ 先の見通しを立てながら、計画的に行動しているか？				
	④ 基本的なマナーやルールを守れているか？				
	⑤ 自分の意思でわからないことを質問できるか？				
	⑥ 自分の感情を自分でコントロールできるか？				
	⑦ 自分の順番をきちんと待てるか？				
	⑧ だれかと協力しながらスムーズに活動できるか？				
	⑨ できないことに対してあきらめずにトライできるか？				
	⑩ 緊張しすぎたり、過度に不安になったりしていないか？				

生活学習の 基本ルール

4

【カテゴリーB】 教科への紐づけ と質問

【カテゴリーB】に相当する生徒に対しては、ワークショップの内容に応じて、**教科への紐づけ**を行います。

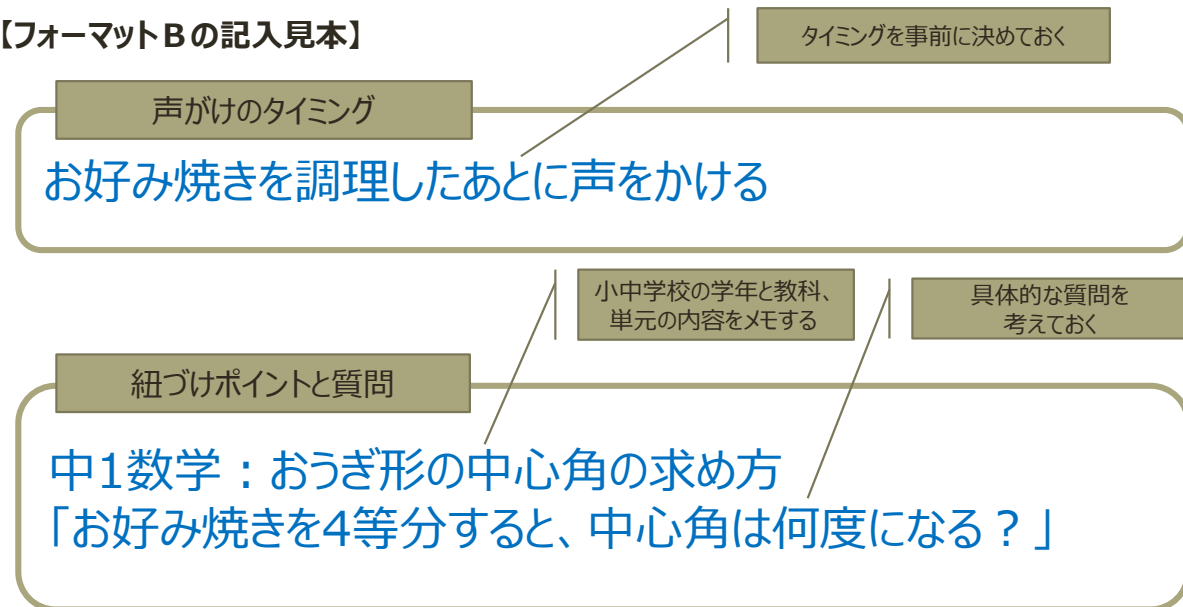
教科への紐づけとは、ワークショップの進行に合わせて、インターンが教科に接続できるポイントについて**生徒に質問を投げかける行動**をさします。

生徒が答えられない場合は「こんど一緒に勉強してみようね」と声をかけます。

以下の例を参照し、インターンがどんな紐づけを行うかを決定してください。

声かけのタイミング、教科への紐づけと質問は、事前にワークショップの内容を確認したうえで、次ページの「**フォーマットB**」に記録してください。

【フォーマットBの記入見本】



フォーマットB 記入用

ワークショップの内容を確認してから、声かけのタイミング、紐づけポイントと質問を記入します。

声かけのタイミング①

紐づけポイントと質問①

声かけのタイミング②

紐づけポイントと質問②

声かけのタイミング③

紐づけポイントと質問③

生活学習の 基本ルール

5

情報共有と 面談

生活学習支援では、ワークショップの直後に、以下のステップを実行します。

- ・ステップ3「教員とインターンの情報共有」
- ・ステップ4「ワークショップ後の面談」

ステップ3では、以下の観点でインターンと教員が情報を共有します。

【生活学習カテゴリーA】の場合

- ・見取りポイント10のなかで、特にどのポイントが顕著に表れていたか。
- ・見取りポイントのライフスキルを向上させるために、どのような対応が必要か。

【生活学習カテゴリーB】の場合

- ・教科との紐づけにおいて、どの教科のどの単元の学習が不足しているか。
- ・教科との紐づけにおいて、どの学年までさかのぼって学び直せばいいか。

ステップ4は、ワークショップ後に行うインターンと生徒の面談です。

ステップ3の分析をもとに、今後の学習や支援の内容について話し合います。

もし、ワークショップの最中に**十分な見取りや声かけを行う時間が持てなかった場合は**、この面談の時間を使って、ワークショップをふり返ってください。

もし、このステップ4を「振り返りの時間」とした場合は、もう一度ステップ3に戻り、教員と情報を共有し、改めて面談の時間を確保してください。

以降、ワークショップ開催のタイミングに合わせて、ステップ1～4をくり返します。

インターン・教員による
【学習支援】

ワークショップの概要

ワークショップでは、インターンが中心になって企画と運営を担当します。
資料の前半ではワークショップの目的、位置づけ、チーム体制について、解説します。
後半は、準備の手順や企画の立て方、注意点について説明します。

ワークショップの概要

1

ワークショップ 3つの目的

ワークショップには、以下の3つの目的があります。

目的①：ワークショップの体験を通じて、生徒の興味関心を刺激する。

目的②：生活学習【カテゴリーA】*1の生徒の行動を観察して、
ライフスキルが必要な見取りポイント10を見極める。

目的③：生活学習【カテゴリーB】*2の生徒に、
教科への紐づけポイントを意識した質問を投げかけて刺激する。

目的①の対象は、探究学習支援の生徒や教科学習支援の生徒です。

目的②の対象は、生活学習支援【カテゴリーA】の生徒です。

目的③の対象は、生活学習支援【カテゴリーB】の生徒です。

どの生徒も同じ内容のワークショップに参加してもらいますが、対応が分かれます。

目的①：興味関心のリサーチに活かすため、当日の個別対応は不要。

目的②：インターンがマンツーマンに近い形で見取りを行う。

目的③：インターンがマンツーマンに近い形で見取りを行う。

インターンは見取りを行う生徒が【カテゴリーA】【カテゴリーB】のどちらに属するかを事前に教員に確認しておいてください。

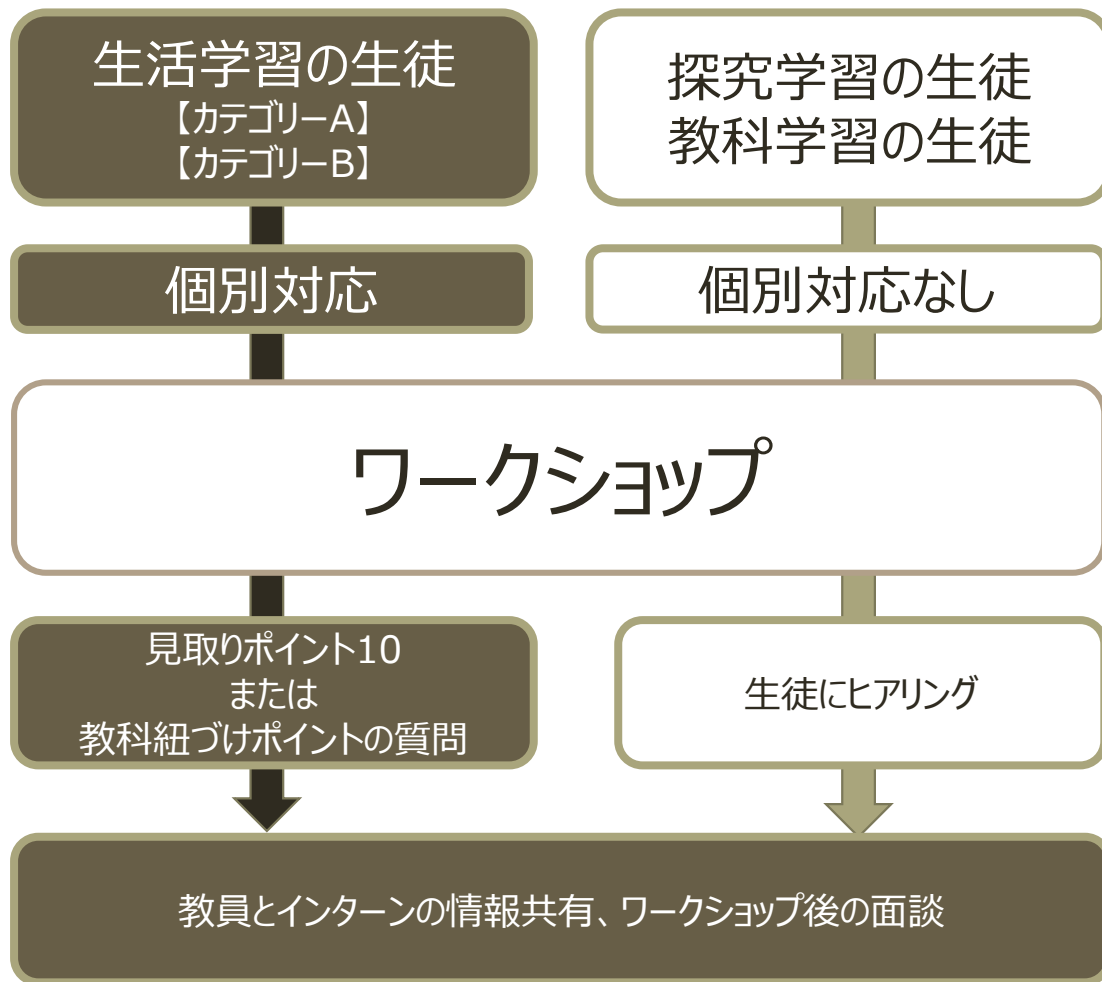
*1*2：生活学習【カテゴリーA】【カテゴリーB】については、資料「04 生活学習の基本ルール」を参照。

ワークショップの概要

②

ワークショップ前後の流れ

ワークショップ前後の流れを図化すると次のようになります。



ワークショップの概要

3

ワークショップのチーム体制

ワークショップでは、インターンを**Aチーム**、**Bチーム**の2つに分けます。

人数とメンバー構成は実状に合わせて調整してください。

たとえば、計4回のワークショップを予定している場合、Aチーム、Bチームのメンバーは、以下のように「**企画**」「**支援**」の役割を交代で担当します。

回	企画担当	支援担当
第1回	Aチーム	Bチーム
第2回	Bチーム	Aチーム
第3回	Aチーム	Bチーム
第4回	Aチーム	Bチーム

「企画」担当のチームは、教員と相談しながら、当日までに以下の準備を進めてください。

- ・テーマ（当日何をやるか）を決める。
- ・ワークショップの日程を決めて告知する。
- ・チームで役割を分担し、必要な道具、資料を用意する。

「支援」担当のチームは、ワークショップ当日、見取りを行います。以下の準備を進めてください。

- ・ワークショップの内容を企画担当のチームに確認する。
- ・教員に相談して担当する生徒を決め、生活学習の【カテゴリーA】【カテゴリーB】を確認する。
- ・【カテゴリーA】の生徒を担当する場合は、見取りポイント10*1の該当箇所を確認する。
- ・【カテゴリーB】の生徒を担当する場合は、紐づけポイントと質問*2を用意する。

*1*2：「見取りポイント10」と「紐づけポイントと質問」は資料「04 生活学習の基本ルール」を参照。

ワークショップの概要

4

ワークショップの準備 その1

ワークショップの「企画」を担当するAチームまたはBチームは、以下の**5つの手順**で準備を進めてください。

手順① ワークショップのテーマと役割を決定する

初回のチーム内ミーティングで担当する回のテーマを仮決めしてください。同時に、チーム内で以下のように役割を分担してください。

【チーム内の役割】

- ・リーダー役……教員との情報交換の窓口になる人。当日の進行役も務める。
- ・シナリオ係……テーマに沿ってワークショップのシナリオを考える。
- ・道具係……シナリオに沿って必要な道具、資料をそろえる。

手順② シナリオ係がワークショップの構成を考える

テーマを決定したのち、シナリオ係がワークショップの構成（手順とタイムテーブル）を考えます。シナリオ係が考えた構成をグループ内で共有したあと、教員に見せて意見を交換します。教員は、ワークショップ全体の進行を考慮してアドバイスを与えてください。

手順③ リーダー役が教員に日程と設備を相談する

ワークショップの構成が決まったら、シナリオ係が必要な道具や資料を洗い出し、道具係に準備を依頼します。

同時に、リーダー役が教員と相談して、ワークショップの実施日、場所、（当日サポートしてもらう）担当教員などを決めてください。

ワークショップの概要

5

ワークショップの準備 その2

手順④ 教員がワークショップの開催を告知する

教員が支援対象となっている生徒全員にワークショップの開催を告知します。

告知の方法は生徒の実状に合わせて教員が選択してください。

ワークショップの対象は、生活学習支援、探究学習支の生徒ですが、教科学習支援やそのほかの支援方針を選択している生徒にも、幅広く参加をうながします。

手順⑤ 教員と企画担当のチームがリハーサルを行う

ワークショップ開催の前に、一度、チーム内でリハーサルを行ってください。

リハーサルでは、以下のことを確認してください。

【リハーサルの確認事項】

- ・開催日時、場所と設備、集合時間
- ・参加を希望している人数と見取りの担当
- ・必要な道具、資料
- ・全体の流れに無理はないか（進行）

リハーサル中に新たな課題が発生した場合は、教員に相談し、できるだけ早く解決してください。

ワークショップの概要

⑥

テーマの立案

ワークショップのテーマは自由に考えてください。

生徒の安全を確保できることを前提にして、アイデアを出し合います。
具体的には以下のようなテーマを立案できます。参考にしてください。

【例：ワークショップのテーマと概要】

ジャンル	テーマ	内容
調理	みんなで 広島焼きをつくらう	広島焼きの材料を購入するところから はじめ、調理してみんなで試食する。
イラスト	好きな漫画に セリフをつけて 名場面を完成させよう	漫画から名シーンを借りてきてイラストと して再現する。最後にオリジナルのひと 言をプラスして、自分だけの名場面を 完成させる。
ものづくり	100均アイテムで 苔テラリウムをつくらう	ガラス瓶、砂利、軽石などの材料を 100円ショップで購入。あらかじめ用意 しておいた苔をつめこんで、苔テラリウム をつくる。
アート	キラキラ光るスライムで アート作品に挑戦！	プラスチックコップ、割りばし、ホウ砂など の材料を用意し、光るスライムを作成。 グループ単位でアート作品を完成させ る。
スポーツ	バドミントンのスマッシュを 動画で研究する	バドミントンのスマッシュを動画で撮影。 力の入れ方や打点について研究し、ス マッシュのコツをつかむ。

ワークショップの 概要

7

構成の チェックポイント

ワークショップの構成を考えるヒントを紹介します。
テーマを決めたあと、以下の**チェックポイント**を確認してください。

ポイント① どこが楽しいのか？

楽しくなければ、みんなに参加してもらえません。楽しさのアピールポイントを意識しましょう。

ポイント② どんな好奇心を刺激できるのか？

「楽しさ」は重要な要素ですが、楽しいだけではワークショップが成立しません。
構成のなかに、生徒の好奇心を刺激するポイントが盛り込まれているかを確認しておきましょう。

ポイント③ 時間内でワークショップが終わるのか？

設定した時間内に無理なく完了するように、時間配分に注意してください。

ポイント④ 「課題→実践→振り返り」の要素が入っているか？

「課題→実践→振り返り」を基本セットにすれば、ワークショップがスムーズに展開します。

ポイント⑤ アシストが必要な部分は？ だれがアシストする？

火を使う、刃物を使うなど、見守りが必要なポイントを明記します。
同時に、だれがどのようにサポートするかも洗い出しておきましょう。

次ページからの「構成アイデアシート記入見本1・2」で構成を決めてください。

ワークショップの構成を考えるためのフォーマットです。

実施日／開始時間 11月11日／13時	テーマ <h2 style="text-align: center;">広島焼きをつくろう</h2>
実施場所／制限時間 調理室／90分	見取りのポイント ①②③④⑤⑦⑧⑩

生活学習支援
 【カテゴリー A】の
 「見取りポイント10」に
 該当する項目をメモ

時間／経過	項目	内容	備考
3分／3分	オープニング	本日のワークショップの内容を予告する。	
5分／8分	課題1 食材の発表	広島焼きに必要な食材をリストにして生徒に渡す。 これから、自分で購入することを予告する。 購入のルールについて説明する。 また、オリジナリティを出すために、食材を1つ自由に購入してもよいことを告知する。	食材リストを作成する。
15分／23分	実践1 食材の購入	2人1組のグループになり、スーパーで食材を購入する。	
5分／28分	振り返り1 食材の確認	購入後の食材を確認する。足りない食材は予備の食材で補う。	補充用の食材リストを作成。
5分／33分	課題2 下準備の告知	食材を下準備する手順を生徒に告知する。	下準備の手順シートを作成。

構成アイデアシート 記入見本2

時間／経過	項目	内容	備考
10分／43分	実践2 食材の下準備	小麦粉を練る、食材を刻む、調味料をそろえる。	包丁に注意する。
2分／45分	振り返り2 下準備の確認	下準備が完了したかを確認する。	
5分／50分	課題3 調理法の説明	広島焼きの調理の手順を解説する。 オリジナル度を出すための食材を投入するポイントを解説する。	
15分／65分	実践3 調理	2人1組で調理する。	ガスコンロの火力に注意する。
3分／68分	振り返り3 写真撮影	完成した広島焼きをスマホで撮影する。	
2分／70分	課題4 試食のルール	広島焼きの半分は自分のグループで試食。残り半分は隣のグループと交換して試食することを告げる。	
15分／85分	実践4 実食	互いに感想を述べ合いながら試食する。	
5分／90分	振り返り4 感想・まとめ	オリジナリティのある広島焼きをみんなの前で発表する。	

メモ

必要な道具などをメモする

構成アイデアシート 記入用1

ワークショップの構成を考えるためのフォーマットです。

実施日／開始時間	テーマ
実施場所／制限時間	見取りのポイント

時間／経過	項目	内容	備考

構成アイデアシート 記入用2

時間／経過	項目	内容	備考

メモ

インターン・教員による
【学習支援】

探究学習の基本ルール

探究学習は、インターンと生徒が協力しながら、いっしょに進めます。
生徒の興味関心のあり方により、スタート地点が変わるので、はじめに確認してください。
資料の前半では「興味関心のリサーチ」、後半では「探求の5つのステップ」について解説しています。

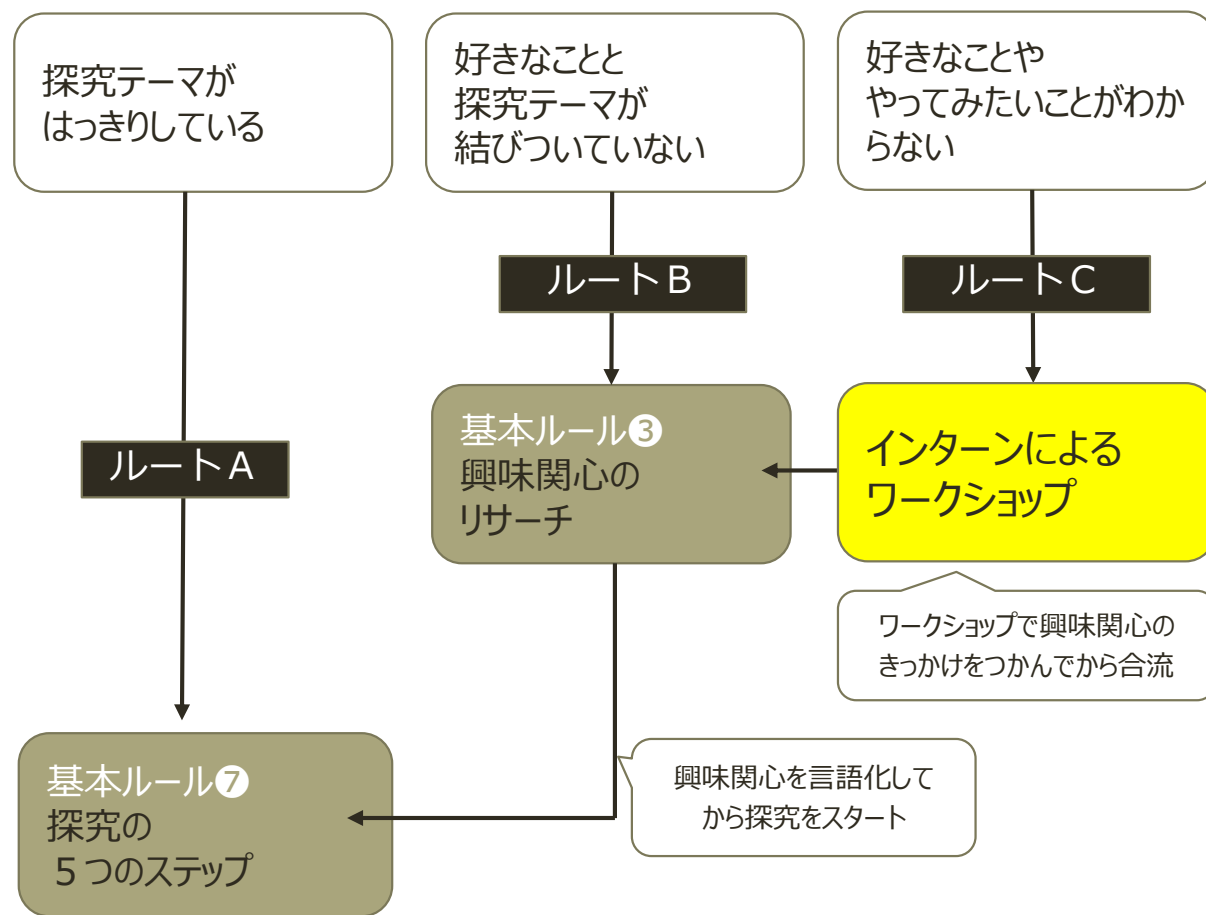
06

探究学習の 基本ルール

①

探究の準備 3つのルート

探究学習は生徒の興味関心によって、以下の3つのルートに分岐します。
対象となる生徒がどのルートを選択すべきかを教員に相談してください。



探究学習の 基本ルール

②

【ルートC】の場合 ワークショップ への接続

探究学習のルートCとワークショップへの接続について説明します。

前項のフローチャートのように、ルートCは、ラポール形成の段階で、「好きなことややってみたいことがわからない生徒」を対象にします。

生徒の興味関心は、通常のコミュニケーションのなかで少しずつ顕在化することもあります。ワークショップのような非日常の体験がきっかけとなるケースもあります。

ワークショップでは、生徒の好奇心を刺激するテーマをいくつか用意します。

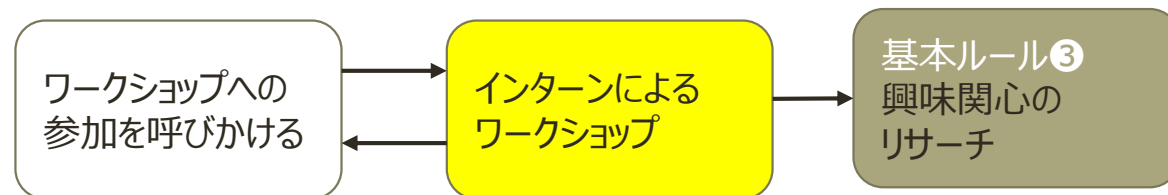
対象となる生徒に積極的に呼びかけて、参加をうながしてください。

また、ワークショップ後に、面談の機会をもうけることも大切です。

生徒の感想・意見を聞き、「探究のテーマに結びつくかもしれない」と判断できるタイミングで教員に相談し、基本ルール③の「興味関心のリサーチ」に進んでください。

もし、「好奇心が刺激されていない」と判断できる場合は、教員と情報を共有し、次回のワークショップへの参加をうながします。

【ワークショップ接続のルーチン】



探究学習の 基本ルール

③

興味関心のリサーチ 言語化の意義

「興味関心のリサーチ」について説明します。

前述の**ルートB**、**ルートC**を進んだ生徒を対象にします。

探究学習では、探究のテーマを選択することが第一歩となります。

「はじめから、これを探究したい！」とゴールが決まっている場合は別ですが、ほとんどの生徒は、**どんなことを探究すればいいのかがわかりません**。

そこで、探究学習に入る前に、マインドマップとインターネットの検索で、**探究学習のテーマになるキーワード**を探しておきましょう。

この段階で、生徒の興味関心領域を限定しておけば、

インターンが並走する**探究の5つのステップ**にスムーズに入れるようになります。

「興味関心のリサーチ」では、生徒とインターンが協力して、

マインドマップの作成とインターネットの検索でキーワードをリサーチします。

生徒を上手にサポートしながらリサーチして、「探求してみたいこと」を**言語化する手伝い**をして、興味関心のある領域を見つけてください。



探究学習の 基本ルール

4

興味関心のリサーチ 大まかな流れ

ここでは、**マインドマップ**と**インターネット検索**を利用する興味関心のリサーチの大まかな流れについて説明します。

臨機応変に変更してかまいませんが、以下の流れだけは把握しておいてください。

【リサーチの大まかな流れ】

- ① 日常会話から生徒の「興味のあること」を探る。
- ② キーワードを見つけてマインドマップに入力してみる。
- ③ マインドマップをいっしょに見ながら、話し合う。
- ④ 会話によってキーワードが増えたら、マインドマップに追加する。
- ⑤ 「行き詰った」と感じたら、インターネット検索を提案する。
- ⑥ 以降、③～⑤を繰り返す。

以上の流れで、生徒の興味関心の領域が見えてくるまで、根気よくリサーチを続けてください。

「どこまでキーワードを増やすか」の判断はおまかせしますが、キーワードを増やしすぎると探究テーマをしぼりにくくなるので、その点は注意してください。

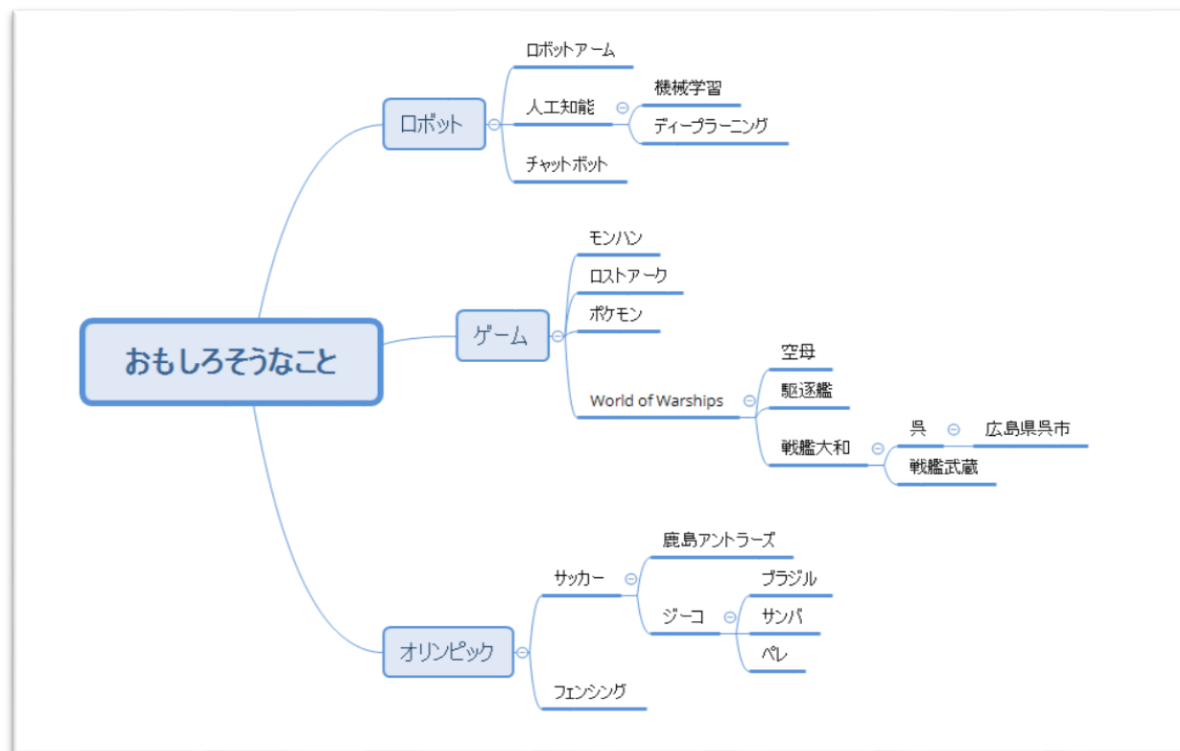
探究学習の 基本ルール

5

興味関心のリサーチ マインドマップ の作成

興味関心のリサーチにおける**マインドマップの使い方**について説明します。
無料のマインドマップの作図ツール（保存が可能なもの）を利用してください。中心のトピックスには「おもしろそうなこと」と入力し、ブランチをのびします。
マインドマップは興味関心を見える化するためのツールです。作図した結果を生徒と
いっしょに見ながら、作り変えたり拡張したりしてください。

【マインドマップの記入例】



探究学習の 基本ルール

⑥

興味関心のリサーチ インターネット 検索

インターネット検索のコツについてお伝えします。

インターネットで生徒といっしょにキーワードを検索するときは、以下のポイントに注意してください。

【インターネット検索のポイント】

- ・生徒と相談しながら検索するキーワードを決める。
- ・検索は基本的にインターンが行う。
- ・生徒が自分で検索をしたがる場合は「交代でやろう」と提案する。
- ・「どのサイトを見るか」は生徒と相談して決める。
- ・生徒が興味を示さない場合は、「別のワードで検索してみよう」と提案する。
- ・おもしろいサイトが見つかったら、積極的に話しかけて生徒の感想を引き出す。
- ・サイトを見ている時間が5分以上になった場合は、「別のサイトも探してみよう！」と呼びかけて早めに切り替える。

インターネット検索は、あくまでも題材を引き出すための手段と考えてください。

最後に、マインドマップとインターネットで集めたキーワードのなかから、探究のテーマにしたいキーワードを3つ選び、次の「探求の5つのステップ」に進みます。

探究学習の 基本ルール

7

探究の 5つのステップ

ルートA・B・Cにかかわらず、本格的な探究学習をスタートする場合は、以下のステップに進みます。

ステップ1 探究テーマを決める

ステップ2 探究テーマを調べる

ステップ3 探究テーマを比べる

ステップ4 ベストワンを決める

ステップ5 探求の成果をまとめる

1つのステップをクリアするまでに必要な時間は生徒によって違います。

先を急がず、**少しずつステップアップ**してください。

また、生徒が探求の内容に興味を示さない場合は、**テーマを変えてリトライ**します。
生徒と相談して、「おもしろそうなこと」をもう一度探してください。

探究学習の 基本ルール

8

ステップ 1 探究テーマを 決める

はじめに探究テーマを決めることからスタートします。
基本ルール⑥で決定したキーワードのなかから、
探究テーマにふさわしいキーワードを生徒と相談してえらんでください。

探究テーマを決めるときは、次の2つの視点で調整してください。

視点① 一般化……もう少し大きくなりからとらえる視点

例：わさび→香辛料／モンスターハンター→アクションゲーム

視点② 具体化……もう少し具体的なことに焦点を合わせる視点

例：恐竜→ティラノサウルス／音楽→ロックンロール

「具体的すぎるので広がりがない」と思えるときは、**視点①で一般化**します。
「カテゴリーとして広すぎる」と思えるときは、**視点②で具体化**します。

もちろん、興味関心のリサーチで見つけたキーワードを、そのまま探求テーマのキーワードとして使用しても問題がない場合もあります。

生徒と相談しながらキーワードの粒度を調整し、探究テーマのキーワードを、次ページの「**フォーマットA**」に記入してください。

フォーマットA 記入用：探求テーマのキーワード

1つでもOKですが、可能であれば、3つくらい候補をあげておきましょう。

探究学習の 基本ルール

⑨

ステップ 2 探究テーマを 調べる

探究テーマのキーワードが決まったら、**インターネット**や**図書館**で調べます。
はじめはインターンといっしょに調べますが、
なれてきたら別々に調べて結果を持ちよるという方法でもOKです。
生徒が嫌がらない場合は、次回までの宿題にするのもよいでしょう。
調べるときの注意点は以下の通りです。

【インターネットの調べ学習】

- ・インターンがテーマに関するキーワードのバリエーションを提案する。
例：香辛料……西洋の香辛料、日本の香辛料、シルクロード
- ・インターンが教科との接続を意識する。^{*1}
- ・調べた項目を整理するためにマインドマップを利用して整理する(推奨)。
- ・関連のあるYouTubeをいっしょに閲覧する(推奨)。

【図書館の調べ学習】

- ・はじめに百科事典や図鑑で調べてみる。
- ・関連性があり、おもしろそうな本を借りてみる。

調べ学習の成果はインターンが箇条書きでまとめてください。
次ページの「**フォーマットB**」に記入してください。

^{*1}：小中学校のどの教科に関連があるか、可能なかぎりインターン側で理解しておき、教員と情報共有してください。。

探究学習の 基本ルール

10

ステップ 3 探究テーマを 比べる

探究学習のステップ2で「十分に調べた」と思える場合は、ステップ3に進みます。このステップ3では、比較する対象を探して、探究に新しい視点をプラスします。まず、「似ているけれど少し違うもの（類似キーワード）」を探します。はじめに、生徒に考えてもらいます。キーワードがうかばなければ、ヒントを出してフォローし、以下の手順で進めます。

手順① 類似キーワードを考える

次ページの「フォーマットC」を使って、いっしょに類似キーワードを考える。どうしても出でこない場合は、インターンが提案する。

例：香辛料……調味料
ティラノザウルス……プテラドン
ロック……ジャズ

手順② 調べ学習を行う

類似キーワードが決まったら、ステップ2と同様の手順で調べ学習を行う。調べ学習の成果は、インターンが「フォーマットD」に箇条書きで記録する。

手順③ 似ているポイントと似ていないポイントを書き出す

調べた結果をもとに、探究テーマのキーワードと類似キーワードを比べて、似ているポイントと似ていないポイントを書き出す。ここで、「フォーマットE」を利用する。

フォーマットC 記入用：探求テーマについて調べたこと

探究テーマのキーワード



類似キーワードを
複数あげて、ひとつえらぶ

類似キーワード①

類似キーワード②

類似キーワード③

フォーマットE 記入用：キーワードを比べて整理する

似ているポイントをまとめてみよう

探究テーマのキーワード

と

類似キーワード

は

という点が似ている！

似ていないポイントをまとめてみよう

という点が違っている！

探究学習の 基本ルール

11

ステップ 4 ベストワンを 決める

探究学習のステップ4では、これまで調べたことをもとに、生徒と相談しながら探究学習の着地点をさぐります。

フォーマットA~Dを生徒とインターンがいっしょに参照しながら、以下の3つのベストワンについてヒアリングします。

【3つのベストワン】

おもしろベストワン……もっともおもしろかったことは？

びっくりベストワン…… もっとも意外だったこと、驚いたことは？

ふしぎベストワン…… もっとも不思議だったことは？

基本的にはインターンがヒアリングする形で進めますが、本人が熱心に話をしてくれるポイントがあれば、その理由を、できるだけ本人の言葉で説明してもらうように誘導します。うまく言語化できない場合は、インターンがサポートしてください。

3つのベストワンは、インターンが**「フォーマットF」**に記録します。

3つの答えをすべて引き出す必要はありません。最低限、どれかひとつは引き出せるようにトライしてください。

フォーマットF 記入用：3つのベストワンは？

おもしろ
ベストワン



びっくり
ベストワン



ふしぎ
ベストワン



探究学習の 基本ルール ⑫

ステップ 5 探究の成果を まとめる

最後のステップ5では、探究の成果をまとめます。

ステップ4の「**フォーマットF**」で「3つのベストワン」をヒアリングした時点で、「もう少し調べ学習を続けたほうがよい」と思われる場合は、「もうちょっと調べてみようか？」と問いかけて**調べ学習を継続**してください。

ただし、もし調べ学習が不十分でも、「生徒が飽きている」と感じた場合は、すぐに次のまとめの段階に突入してください。

探究の内容を深めるよりも、**最後までやりきる**ことのほうが大切です。
以下の文言で探求テーマをまとめることをうながしてください。

おもしろベストワンを選択した場合

「おもしろかったポイントをまとめてみよう！ おもしろいと感じた理由も書いてね」

びっくりベストワンを選択した場合

「びっくりしたこととその理由を書いてね！ 発見したことがあれば、それも書こう」

ふしぎベストワンを選択した場合

「ふしぎだったポイントをまとめてみよう！ どうすれば解決するか、予測してみてね」

この探求の成果は「**フォーマットG**」に記入します。

もし、生徒がうまく言語化できない場合は、インターンがインタビューしながら答えを引き出し、記入してください。

フォーマットG 記入用：探究学習の成果

探究テーマのキーワード

を調べてみたところ、

調べた感想

それは……、

感想の理由

からだ！

まとめると……

インターン・教員による

【学習支援】

教科学習の基本ルール

インターンが生徒の教科学習をサポートする際の注意事項をまとめました。
サポートの3ステップや教員との情報共有の方法を解説しています。
生徒のモチベーションを引き出し、学習習慣を定着させることをめざしてください。

07

教科学習の 基本ルール

①

サポートの 3ステップ

教科学習では、生徒の学力に合わせ、状況を確認しながら3ステップで支えます。

【教科学習：サポートの3ステップ】

ステップ1

学力と学習習慣を見極める

ここで
やること

- ・インターンが教員（クラス担任、支援ルーム担任）から、生徒の学力や学習習慣を聞き取る。
- ・学習習慣を身につけてもらうためのきっかけを探る。

ステップ2

学習習慣の定着をめざす

ここで
やること

- ・生徒の「個才」を考慮しながら学習習慣の定着をめざす。
- ・モチベーションや集中力を維持する方法をいっしょに探る。

ステップ3

進路の確認と弱点の補強

ここで
やること

- ・教員と相談しながら、進路を見据えた学習指導を行う。
- ・進路と学力の現状を把握して計画を立て、足りない力を補う。

教科学習の 基本ルール

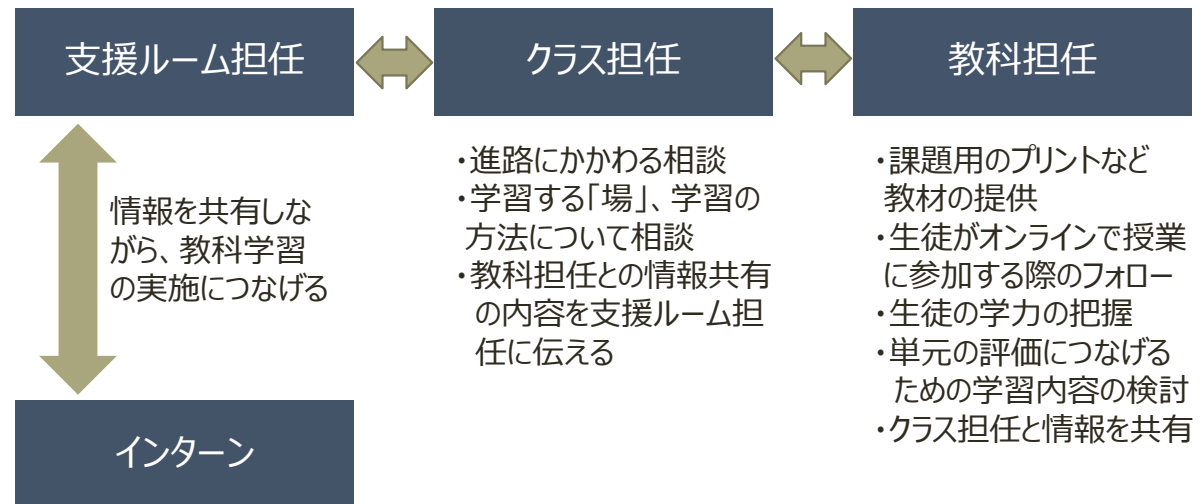
②

教科学習の 支援体制

教科学習では、対象となる生徒のクラス担任だけでなく、**教科担任との連携**も必要です。

インターンによるサポートが始まる前に、支援ルーム担任を窓口として、情報共有が行える体制をととのえてください。

【教科学習の支援体制】



【事前に用意が必要となるもの】

- ① インターンが使用する教材（教科書は、各学年ごとに1セット必要です）
- ② インターンが登校時に、準備や作業を行うための待機スペース
- ③ Googleクラスルームなどで、チャットによる支援を行う際のアカウント（ID）

教科学習の 基本ルール

③

情報共有と ヒアリング

インターンが教科学習の取り組みを始める場合は、**先に教員と情報を共有し**、その後生徒と学習内容や学習の手法について話し合います。

【教員と共有しておく情報】

- ①教員の見立てによる生徒の学力レベルと課題
- ②教員による手立ての方針
 - ・教科の選択とバランス
 - ・使用する教材
 - ・学習環境
- ③学習態度（集中力）

【生徒へのヒアリングで確認しておくこと】

- ①好きな教科、苦手な教科
- ②教科学習へのモチベーション
- ③難しいと感じていること（読み書きや、計算など）
- ④進学希望の有無

基本的には、生徒の希望や意思を尊重し、「やってみよう」というモチベーションを維持することを優先してください。

教員による事前の見立てと生徒の希望が大きく乖離する場合は、一度教員と相談し、その後生徒と話し合いながら調整していきます。

教科学習の 基本ルール

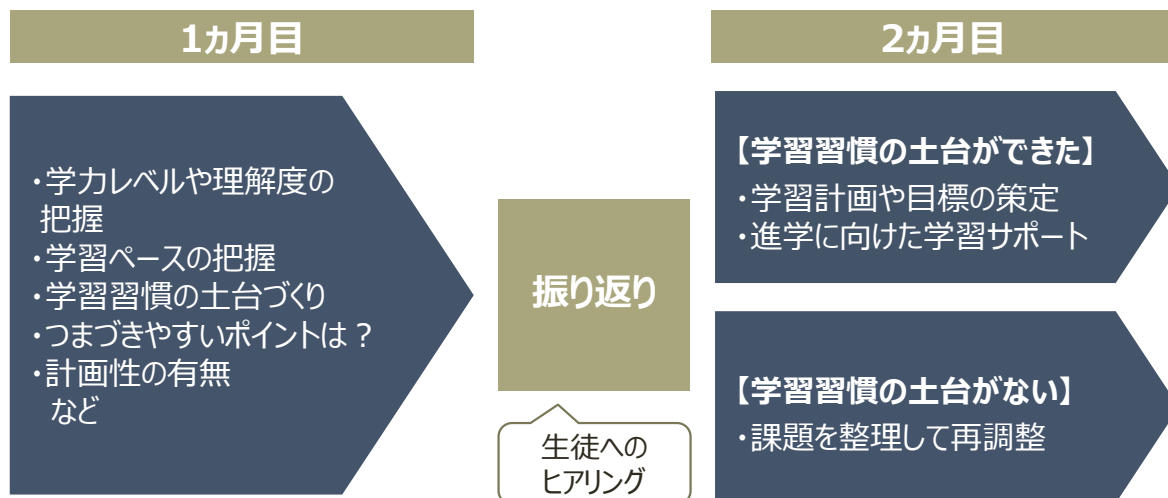
4

学習の流れと 進め方

教科学習支援は、いくつかのパートに分けて段階的に進めていきますが、1か月程度のタイミングで**振り返りの機会**を設けることを推奨します。

このとき、当初の見立てをベースに、教員と次の1か月の進め方を検討します。また、このタイミングで、生徒に対するヒアリングも行います。

【1か月単位の学習の流れ】



【生徒へのヒアリング】

振り返りのタイミングで以下のような声かけを行い、話を聞きます。

- ・「学習計画や目標を立ててみる」というモチベーションはあるか？
- ・1か月やってみて、次はどんなことを目標にしたいと考えているか？

教科学習の 基本ルール

⑤

学習ツールの 選択

教科学習に使用するツールは、個人の特性によって変わります。

パソコンを中心にデジタルで学んでも、ドリルや問題集を中心に従来の方法で学んでもかまいません。

生徒の現状をふまえながら、教員と相談して決めてください。

継続的な学習の成果をはかるために、**どちらをメインにするか**を決めておきます。

ただし、調べ学習ではインターネット検索や動画視聴が有効な手段になります。紙の教材中心で学習を進めている場合も、必要に応じて柔軟に取り入れてください。

【学習ツールの選択】

パソコン中心

- ・オンライン授業
- ・インターネット検索
- ・動画視聴
- ・デジタル教材

紙の教材中心

- ・ドリルや問題集
- ・教科書
- ・参考書
- ・辞書や資料集

教科学習の 基本ルール

⑥

学習方法の 工夫

教科学習の支援は、学び方やコミュニケーションの方法を工夫することで、より質を高めることができます。ここではその一例を紹介します。

【学習意欲を高めるために教材を工夫する】

クラス担任や教科担任のアドバイスをもとに、生徒の学力や課題に合わせた個別のプリントなどを用意します。プリントやEdtech教材など、自分に合った学び方を選択できるように準備することも大切です。

【オンライン授業の支援は介入の仕方を工夫する】

クラスの授業をオンラインで配信する場合、生徒は2つの参加パターンが考えられます。

- ①登校はして、支援ルームなどの別室からオンライン授業に参加する
- ②登校はせず、自宅から端末などを使用してオンライン授業に参加する

①②ともに授業の進行があるため、授業中は要点ごとに「いまの内容は難しく感じた？ わかりそう？」といった課題点の把握を優先します。授業終了後、生徒がわからなかった点を整理し、改めて別の時間枠をもうけて復習や課題に取り組みます。

また、②のように、オンラインを利用した支援では、生徒が意思表示をしやすいように、事前に合図（「はい」「いいえ」を書いたカード、動作）を決めておくという方法もあります。

【学習とラポール形成のすみわけを工夫する】

学習中のちょっとした雑談はラポール形成をはかるうえで大切な機会です。ただし、生徒があまりに逸脱してしまう場合は、目的のすみわけが必要です。息ぬきは1日1時間と決める、学習とは別の時間や空間でラポール形成をはかるなど、担当教員と相談しながら対応してください。

教科学習の 基本ルール

7

単元振り返りと 反省会

前述の1か月単位の振り返りとは別に、教科単元ごとに生徒に声をかけながら、**単元振り返りの時間**を設けるようにします。明確な区切りが見つからないときは、1日の最後に振り返ります。生徒といっしょに振り返ることが、復習と課題の再確認につながります。また、1日の最後に、**インターンと教員で反省会**を開きます。「学びのカルテ1」への入力は、この反省会の直後に行います。

【単元振り返りのタイミング】

- ・教科の単元がひと区切りついたとき
- ・1日の学習の最後

【単元振り返りの声かけ】

①できている点、できなかった点の確認

「ここは、とてもよくできているね」

「ここは次回、もう少しがんばってみよう」

②わからなかった点の確認

「どのへんが、わかりにくかった？」

「もう少し説明を聞きたいところはある？」

③学習意欲の確認

「次も、このまま続きをやってみる？」

「このペースだと、次は〇〇までできそうかな？」

教科学習の 基本ルール

8

ワークショップ への接続

教科学習を続けていくうえで、モチベーションが低下していたり、目的意識があいまいになったりしている場合は、**ワークショップへの参加**を呼びかけます。

ワークショップでは、生徒の好奇心を刺激するテーマをいくつか用意します。

対象となる生徒に積極的に呼びかけて、参加をうながしてください。

また、ワークショップ後に、面談の機会をもうけることも大切です。

生徒の感想・意見を聞き、**進路やキャリアプランの大切さ**を再確認することで、教科学習への取り組みにつなげてください。

もし、ワークショップへの関心が「探究のテーマに結びつくかもしれない」と判断できる場合は、新たに**探究学習支援**への参加を検討することもできます。

教科学習と探究学習は同時進行が可能なので、教員とインターンの反省会で提案してください。

